

黄化葉巻病はコナジラミー匹でも蔓延します

トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) の蔓延を防ぐために、媒介虫であるタバココナジラミを一匹でも見逃さない様にします。



写真
左：タバココナジラミ
体長0.8mm

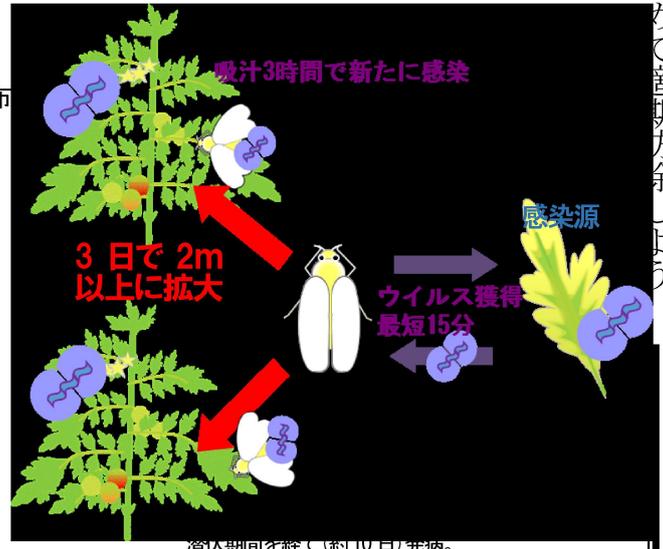
右：トマト黄化葉巻病
新葉が黄化しながら
葉巻症状となる。

農薬は正しく使いましよ 除草の徹底

- ・日ごろからハウス内外の除草を徹底。コナジラミもウイルスも雑草や周辺の植物にいます。
タバココナジラミは寄主範囲が広くキク科、アブラナ科、ウリ科、マメ科など30科88種の植物に寄生。
TYLCVは、ハコベ、ノゲシなどの雑草やペチュニア、ダチュラ、トルコ桔梗、インゲンマメ、ピーマン（無症状）、ジャガイモ（無症状）にも感染。

コナジラミは発生させない

- ・散布ノズルを上むきにして葉裏のコナジラミにかかるよう薬剤散布
コナジラミは下葉の裏に多くいます（トマト生育前半）
- ・芽かき等の残渣は放置しない。
- ・展着剤はきちんと入れる。
コナジラミは水をはじくので、農薬が付着しやすいようする。
- ・薬剤抵抗性が発達しない様に農薬はローテーションする。
本圃の散布には育苗期とはちがう系統の農薬を用意すること。



発病（疑い）株をみつけたら

- ・発病（疑い）株を見つけたらすぐにコナジラミの防除を徹底し
発病株は抜いてビニル袋等に密閉する。
コナジラミを3日放置（一匹/株）すると、半径2m以上に感染。
（症状がみられなくてもすでに潜伏感染している可能性が大）

潜伏期間を経て（約10日）発病。
潜伏期間は気温で変わる 参考：関西病虫研報
図 3日で感染源から半径2m以上*に感染を拡大

登録農薬（トマト）

RACコード	系統名	薬剤名	使用濃度	10aあたり使用量	使用時期	使用回数
4A	ネオニコチノイド*	ベストガード水溶剤	1000~2000倍	100~300ℓ	収穫前日まで	3回以内
		スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	2000~3000倍			2回以内
9(B)	ピリジンアゾメチン誘導体	チェス顆粒水和剤	5000倍			3回以内
		コルト顆粒水和剤	4000倍			3回以内
28	ジアミド	ベネビア OD	2000倍			3回以内
6	アベルメクチン	アニキ乳剤	1000~2000倍			3回以内

☆最新の農薬登録情報 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>) を確認して下さい

農薬の安全使用に努めて適期方余しよ